

令和4年度学校自己評価表

鳥取県立米子東高等学校定時制課程

学校ビジョン	未来を拓く人財の育成		
中長期目標	<p>1 人間理解のできる生徒の育成 人間の強さや弱さ、尊厳を深く理解し、自分と異質のもの存在を認めながら、共に関わり共に生きる共生の精神を持つ生徒を育成する。</p> <p>2 課題意識のある生徒の育成 知的好奇心、科学的探究心と課題解決能力を育て、自身や社会に常に意識を持って自主的・積極的に学習し、自らの成長と社会への貢献を志す生徒を育成する。</p> <p>3 自己表現のできる生徒の育成 他人の意見に対しては率直に受け止め、自分の意見を論理的に明確に表明できるコミュニケーション能力を持った生徒を育成する。</p>	今年度の重点目標	<p>1 自己実現に向けた教育の充実</p> <p>2 豊かな人間性の育成</p> <p>3 社会人としての意識の高揚</p> <p>4 働き方改革の推進</p>

評価項目	具体項目	年 度 当 初			最 終 評 価	
		現状	具体目標	目標達成のための方策	経過・達成状況・改善方策	評価
1 自己実現に向けた教育の充実	主体的な学びによる基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ○授業評価アンケート「わかりやすい」90.7% 「先生の熱意を感じる」92.1% ○米東サポーター・特別支援教育支援員の配置により、落ち着いた学習環境を保つことができています。 ○ICT活用研修会を実施する等、令和4年度1年次生の授業からChromebookを使用するための準備を行った。 ○パフォーマンス評価の実施に向けて準備を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わかる授業を推進 授業評価アンケート「わかりやすい」90%以上 「先生の熱意を感じる」90%以上 ○個に応じた学習指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の授業公開の実施 ○授業評価アンケートを活用した授業改善 ○各教科でのルーブリック作成とパフォーマンス評価の導入 ○ICTの積極的な活用 ○米東サポーターの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の公開を随時行ったほか、授業公開週間を設け、他教科の授業も見学して授業改善への意識を高めた。 ○授業評価アンケートは、「わかりやすい」96.6% 「先生の熱意を感じる」97.1%であった。 ○ルーブリックを活用した授業実践とパフォーマンス評価を導入した。 ○定時制教職員対象の「ICT活用研修会」を2回（7月、1月）実施した。Chromebook等、授業でのICTの効果的な活用に努め、生徒の関心・意欲や理解を高めることにつなげた。 ○長期休業中の課題を導入し、基礎学力の定着に努めた。 	A
	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○スクールカウンセラー（SC）による個人面談を実施し、生徒への適切な対応に繋げている。 ○SCとのコンサルテーションを定期的に行っているほか、生徒理解研修会、QU研修会、日々の夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有しケース会議も行っている。 ○外部機関と連携し、生徒の進路選択・進路決定に向けて、サポートも行っている。 ○不登校傾向の生徒について、SCによるコンサルテーションを実施したほか、SSWや市の子育て支援課と連携し、支援に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談体制、特別な教育的支援を必要とする生徒への支援の充実 ○教職員の特別支援教育に対する意識の向上 ○特別支援教育支援員の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○全職員による生徒情報の共有並びに支援 ○SC、米東サポーター、SSWの積極的な活用 ○QUの有効活用 ○特別支援教育支援員の支援活動計画の作成 ○教職員の外部研修への参加推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生とSCとの個人面談を実施し、必要な生徒には継続的にカウンセリングを行った。 ○SCとのコンサルテーションを定期的に行っていたほか、生徒理解研修会、QU研修会、日々の夕礼・終礼等で、生徒の状況、対応について職員間で共有しケース会議も行った。 ○8月からSSWの定期訪問が始まり、SCと特別支援部とで個別の生徒についての支援会議を継続して行い、児童相談所、市の相談課等と連携して個別支援を行った。 ○米東サポーター、特別支援教育支援員による授業サポートを計画的に行い、生徒の困り感解消に努めた。 ○外部機関との連携を図り、生徒の進路に向けてのサポートも行った。 	A
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○3年次生に対し、4月からCAによる個人面談を実施した。 ○面接練習や個別指導等に全教職員が関わった。 ○就職内定率100%、進学決定率100%だった。 ○進路だよりの発行、ビジネスマナー講習会・地元企業/事業所見学・進路説明会および生活時間調査の実施によって、進路意識を高め、生活習慣を改善する者も見られた。 ○3年次生の進学希望者に業者テストを実施した。 ○保護者懇談では、1年次から積極的に進路の話をして、進路選択・進路決定に向け早い時期からの意識づけに努めた。 ○1、2年次生から進路に対する意識を高める必要がある。 ○CAによる定時制教職員対象の進路指導研修会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○就職内定率及び進学決定率100% ○就職指導、進学指導の充実 ○進路意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○HR、面接による就職・進学に対する心構えの徹底指導 ○ビジネスマナー講習会、地元の事業所・学校見学の実施 ○CAによる進路指導研修会、1・2年次生対象の進路説明会・進路面談の実施 ○進路決定者に対する事後指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科試験対策・面接指導等に多くの職員が関わり、大学・専門学校への合格や就職内定につながった。 ○12月末現在、就職内定率80%、進学決定率100%である。3年次生の就職希望者を中心にCAによる面談を充実させたが、就職希望者に未定の生徒がいる。2年次、3年次生の進学希望者には、業者テストを活用し、進学に向けて具体的な準備を進めた。 ○進路だよりの発行は1回に留まった。 ○生活時間調査の実施し、情報を共有したが、生活習慣を改善するには至っていない。 ○冬季の家庭学習のために就職に関する題材に取り組みさせた。特に、1年次と2年次で積極的に課題に取り組んでおり、進路決定に向け、早い時期からの意識づけができたと思われる。 	B
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートを作成する際、対話をしながら過去の振り返りを行った。2回目の記入の際は1回目の記入の状況を見て、より取り組みやすいものに整えて実施し、自己理解に繋げた。 ○潜在的な進路希望を読み取るため、キャリア・パスポートを活用した。 ○将来を見通すことができず不安を抱えた生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路意識の早期啓発 ○キャリア意識の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートの活用 ○生徒会企画や定通教育充実事業等による地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア・パスポートを作成させ、講演会等、様々な学びの機会を捉え、記録を残すよう指導した。記述内容は引き続き質を求めるとともに、より早期から自己理解に繋がる更なる取り組みを検討したい。 ○地元事業所・学校見学を実施し、生徒に自らのキャリアデザインについて考えさせることができた。 	B	

2 豊かな人間性の育成	生徒会・部活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ○各部活動顧問と連携し、スムーズな部活動運営を行った。 ○生徒会執行部会を開催し学校行事の活性化を図った。 ○生徒の主体的な活動を積極的に取り入れ、その取り組みの一部は学校だよりや学校HP、新聞・テレビ等の報道各社を通して地域に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動や部活動、学校行事への生徒の主体的な取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体的な活動のための内容の工夫 ○学校HPの更新回数を増やす ○生徒会役員との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○執行部会を年間約20回開き、生徒が主体的に行事の企画・運営を行った。また、執行部会を行えないときは、Google Classroomを活用しながら生徒会役員との連携を図った。 ○生徒会で新たな行事を計画し、全校生徒が学年の枠を超えた交流を楽しんだ。アンケートの結果も「企画を楽しめた」「当日の運営に満足している」という好意的な意見がどちらも90%だった。 ○生徒会活動の様子をHPに3回掲載した。掲載できなかった行事もあるので、今後は更新頻度を増やしていきたい。 ○県総体や県生連大会に向けて、部活動週間を設定し、新型コロナウイルス感染対策に十分な配慮をしながら練習に励んだ。各競技の結果は学校HPや米東だより等に掲載し、その活躍を報告した。 	A
	社会で役に立つ体験的活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においても感染予防対策を講じ、アウトドア体験・地元の資源体験を実施した。 ○地元の資源体験は、新たに「ピザ作り・大山寺周辺の散策」を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域に根ざした教育活動 ○体験的な活動による豊かな心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験活動先との連携強化 ○新たな体験先の開拓 	<ul style="list-style-type: none"> ○アウトドア体験（カヌー体験・乗馬体験）及び地元の資源体験（松江城・堀川めぐり）は感染症対策を講じて実施し、豊かな自然に触れ、級友と親交を深める機会となった。活動の様子は学校のHPや学校パンフレット等で紹介した。今後も多様な経験を通して、自主性・自立性の構築を目指したい。 ○今後は『定通教育充実事業』として、自然体験スキー実習・郷土食体験・テーブルマナー講習会等の体験活動を実施する予定である。 ○地元の資源体験では新たな体験先として、松江方面（松江城・堀川めぐり）を開拓した。郷土文化や地元の特産物等に触れ、生徒たちが地元に対するふるさと意識を持つきっかけとなった。 	B
	人権感覚豊かな生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○2度の人権教育講演会を実施し、このうち1回はコロナ禍にあってオンラインで実施した。 ○生徒は話し合い活動により自他尊重の体験をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権LHRの充実 ○各領域での人権意識の育成 ○共に安心できる集団の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係作り、コミュニケーション能力育成のための教材の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の人権教育のテーマに基づいた内容の講演会を実施し、その後のLHRで話し合いを行った。話し合いを行うことによって、自分や同級生の考えや思いを分かち合うことができた。 ○1年次生の一部が、後期から生徒会執行部に入り、他学年と交流しながら生徒会活動を行った。 	B
	社会参画できる生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○高等学校課事業や定通教育充実事業を通して、社会に対する理解を深めている。 ○授業や講演会等において、マナーについての理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○マナーを守り居心地の良い集団の形成 ○地域を理解し、地域の力になろうとする意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな事業による体験的活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の更なる充実を目指し、昨年度までの「地元の企業見学」を「学校・事業所見学」に拡充したほか、新規事業として「語り人@勝田町」を実施した。地域の方々のお話を直接伺い、地域の魅力を再認識するとともに、自分たちの未来を思い描く機会となった。 ○授業や各講演会において、授業担当者や講師の話、体験活動を通して、新たな発見や更なる学びへの興味・関心へとリンクさせることができた。話を聴くマナーについては、引き続き意識を高めていきたい。 	B
3 社会人としての意識の高揚	規範意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は基本的には落ち着いた学校生活を送っている。 ○一部の生徒に規範意識の低さが見られるため、指導を継続する必要がある。 ○職員間で生徒情報を交換、共有している。 ○始業時・終業時のあいさつをきちんとできる生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた教育環境の維持 ○問題行動発生件数3件以下 ○皆勤及び精勤15名 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員間の情報交換の実施 ○生徒への日常の声かけの徹底 ○規律ある学校生活の徹底 ○保護者との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は落ち着いて学校生活を送っている者が多いが、一部になかなか学校に向かない者もいる。 ○問題行動発生件数は目標を達成できなかった。 ○始業時間の徹底と学校規則の遵守について継続して指導する。 ○職員間で生徒の情報交換・共有を図った。 ○12月末現在、皆勤3名、精勤4名である。 	B
	家庭との連絡の緊密化	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席や遅刻について、学校に連絡する習慣が身に付いており、無断欠席はほとんど無いが、欠席・遅刻・早退が続く生徒に対して保護者との連携を強化する必要がある。 ○あいさつや言葉遣いに対して、意識の高い生徒がいる一方で、スマートフォンが手放せない生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席の多い生徒に対する支援の見直し ○保護者への学校理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だよりや学校HPによる学校の教育活動の発信 ○家庭連絡や保護者面談による連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席生徒の多くが、授業開始前に欠席連絡を行うことができた。 ○担任を中心に、面談や電話連絡等で、こまめに家庭連絡を行った。 ○あいさつや言葉遣いについては、意識の高い生徒もいるが、まだ改善の余地があり、引き続き指導したい。 	B
	【体】育、【食】育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○定時制夜間給食や「食」のアンケート、「食」の講演会において「食」に対する理解を深めている。 ○鳥取県定時制通信制総合体育大会や鳥取県生徒会連盟大会、保健体育の授業の他、新たに、生徒会企画で定時制大運動会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康に対する意識の向上 ○日常生活時間の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○「食」のアンケートの実施 ○生活時間調査の実施 ○定時制夜間給食の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○定時制夜間給食は、主に学校行事に合わせて食事を提供した。食を通じて食に対する意識を高め、「3食とる」「栄養のバランスを意識する」等、食生活の改善について考える機会になった。 ○「食」の講演会は、朝食の重要性について多くの生徒が意識を高めた。 ○食生活に関するアンケートを実施した。アンケート結果は教職員・生徒に共有し、栄養教諭とも連携して食育を行った。 ○「食」に関する本を保健室に置き、生徒に声かけも行った。 ○実際の生活改善に繋がっていない生徒は、継続して指導を行いたい。 	B
	よりよい学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミの分別に取組んでいる。 ○清掃活動は主に7月・12月に実施した。 ○学習室のゴミ箱を生徒自ら管理させ、ゴミは各自で持ち帰る指導を行った。 ○日頃は当番制で、行事の日は教職員で一斉に使用教室の消毒を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校内環境の整備 ○HRの時間に全生徒と教員で清掃活動 ○日頃の消毒作業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミの分別や減量化についての指導実施 ○日頃の清掃活動と消毒作業 	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃活動は、担当の箇所を積極的に行うことができた。掃除時間外で、自ら進んで廊下のモップ掛けを行う生徒もいた。 ○ゴミの分別や減量化に引き続き努めたい。 ○共有部分の消毒や、手指消毒、登校時の検温は、日頃からきちんと取り組むことができた。 ○換気の方法について共有し、呼びかけや校内巡視を行った。 	B
4 働き方改革の推進	業務の効率化	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍にあって、一部予定どおりに実施できなかった事業もあるが、実施時期や実施内容を再検討してできる範囲で実施した。 ○主査と副査とが連携しながら分掌業務を行っている。 ○長期休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、リフレッ週を設定した。 ○教育目標の達成に向け、全教職員が一層連携して取り組みたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○円滑な業務の遂行 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な事業の実施 ○分掌内における業務分担の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍であることを意識して、計画の段階から様々な状況を考慮して準備を進め、これまでほぼ予定通りに事業を実施することができた。 ○各分掌の主査・副査を中心に、業務は概ね分担して行っているが、連携については、更に強化したい。 ○長期休業中は夕礼・終礼を行わない期間とした他、勤務時間の割振変更やリフレッ週の設定を行った。 	B